

に出津候て可見廻事悦喜候。謹言。

九月廿二日

義(畠山) 元 在判

天野次郎左衛門尉殿

〇 二二八五

【天野文書】

於其方無如在候由、自二郎方申越候。神妙之至候。猶以其心得可爲肝要候。謹言。

十月十九日

義(畠山) 元 在判

天野二郎左衛門殿

〇 (二郎とは畠山義總のことなるべし。)

【天野文書】

就今度届并被官討死忠節、本領前々所可知行候。笠師村事爲祈所申付候。彌可致粉骨候。謹言。

十二月廿六日

義(畠山) 元 在判

天野次郎左衛門尉殿

〇 二二八六

(鹿島郡)

【三條西家文書】

年甫之御慶珍重々々、猶以不可有盡期候。仍于蛸一頭、背腸十桶進献候。宜預披露候。恐々謹言。

正月十一日

義(畠山) 總 在判

中務權少輔殿

〇 (中務權少輔は三條西家の諸大夫たるべし。)

【三條西家文書】

改年之御慶萬幸々々、猶以不可有際限候。仍太刀一腰令進献候。聊表祝儀計候旨、宜預披露候。恐々謹言。

正月廿三日

義(畠山) 總 在判

中務權少輔殿

【三條西家文書】

永閑下國之時、尊札拜見本望候。殊奥入一冊、彼抄自紅葉賀至葵卷到來、祝着至候。同者相殘分披覽之望候。奉憑候外無他候。尙重而可申入旨、可預披露候。恐々謹言。

〇 二二八九

に出津候て可見廻事悦喜候。謹言。

九月廿二日

義(畠山) 元 在判

天野次郎左衛門尉殿

〇 二二八五

【天野文書】

於其方無如在候由、自二郎方申越候。神妙之至候。猶以其心得可爲肝要候。謹言。

十月十九日

義(畠山) 元 在判

天野二郎左衛門殿

〇 (二郎とは畠山義總のことなるべし。)

【天野文書】

就今度届并被官討死忠節、本領前々所可知行候。笠師村事爲祈所申付候。彌可致粉骨候。謹言。

十二月廿六日

義(畠山) 元 在判

天野次郎左衛門尉殿

〇 二二八六

(鹿島郡)

【三條西家文書】

年甫之御慶珍重々々、猶以不可有盡期候。仍于蛸一頭、背腸十桶進献候。宜預披露候。恐々謹言。

正月十一日

義(畠山) 總 在判

中務權少輔殿

〇 (中務權少輔は三條西家の諸大夫たるべし。)

【三條西家文書】

改年之御慶萬幸々々、猶以不可有際限候。仍太刀一腰令進献候。聊表祝儀計候旨、宜預披露候。恐々謹言。

正月廿三日

義(畠山) 總 在判

中務權少輔殿

【三條西家文書】

永閑下國之時、尊札拜見本望候。殊奥入一冊、彼抄自紅葉賀至葵卷到來、祝着至候。同者相殘分披覽之望候。奉憑候外無他候。尙重而可申入旨、可預披露候。恐々謹言。

〇 二二八九

九月二日

義(畠山) 總 在判

中務權少輔殿

〇

【三條西家文書】

成身院下國之時、尊札本望至候。殊彼一帖拜見、祝着不知所謝候。同者相殘分、早々披見之望候。奉憑斗候。次

先度差上半隱候處、種々御懇意共由過分至極候。尙宗歡

可有演說旨、可預披露候。恐々謹言。

十二月廿日

義(畠山) 總 在判

中務權少輔殿

〇

【三條西家文書】

先度者爲祝儀、御太刀一腰拜領、過分之至目出存候。仍御太刀一振令進献候。宜預披露候。恐々謹言。

十二月廿八日

義(畠山) 總 在判

中務權少輔殿

〇

【古簡雜纂】

二二九二

十一月十八日尊札昨日暇四拜見、畏悅候。仍彼集御切紙

共拜受、祝着之至候。誠以世々厚恩難盡筆端候。彌可預

恩惠事本望候。自是亦連々可得御意候。相殘候切紙之

事、重而可差上人候條、被下□□、唯々下着之御左右申

入候。已前之料紙、彼集別口傳之所々可被注下旨、恐悅

候。於餘紙者、宗祇聞書可被染御筆候由、満足此事候。

然者文字讀、清濁已下被注加候者、可爲本懷候。次十一

月十六日貴札同到來、殊細流抄御與書外題拜見、喜悅千

萬候。并史記御本之点寫、則可上進候。先度之御本只今

返進申候。將亦乍輕微、萬匹令進入候。連々不可存疎

略心底候旨、猶半隱齋可申入由可預披露候。恐々謹言。

十二月五日

義(畠山) 總 在判

中務權少輔殿

〇

【三條西家文書】

二二九三

年甫之御慶萬幸々々。抑雖輕微至候、海鼠腸五十桶令進